

小高復興デザインセンター

小高志

No.14

2018年8月

船の行く海、
花の咲くまち

▼ 4月16日午前9時～お昼頃、第1回塚原グラウンド・ゴルフ大会が開催され、24名の方が集まり、みんなで和気あいあいとプレーを楽しみました。



塚原 グラウンド・ ゴルフ広場が できました！

昨年10月頃から、塚原行政区の皆様と協議を重ね、ついに塚原公会堂前の空き地にグラウンド・ゴルフ広場ができました。行政区の方々で最低限の整備をして、4月にはお試し会を開催しました。イベント当日は、ラジオ体操から始まり、優勝者にはトロフィーも授与されました。今となっては週2回（火・土）午前9時からの定期的な活動になっています。塚原行政区内外問わず、どなたでも参加できるそうです。

▶ 整備前の公会堂前の空き地の状況（2017年11月撮影）



南相馬市まちづくり活動支援事業補助金（用具等経費分）・赤い羽根共同募金（花壇づくり諸経費分）の採択決定

第1回復興塚原グラウンド・ゴルフ大会（お試し会）を協働で開催する

民間助成金の申請等、試行錯誤するうちに、できることから始める方針へ

行政区長から、公会堂前の空き地の活用についてデザインセンターへご相談を受ける

平成30年7月

平成30年6月

平成30年4月

平成29年11月～

平成29年10月

塚原
グラウンド・
ゴルフ広場が
できるまで

第2回復興塚原グラウンド・ゴルフ大会＋花壇づくりが開催される

住民の方々に「塚原太平洋クラブ」が結成され、週2回の定期的な活動に発展

行政区で広場の草刈りなどの整備始動

空き地活用ワークショップ開催@公会堂
→グラウンド・ゴルフ需要が高いと判明

※デザインセンターは、ワークショップの運営や助成金申請などをお手伝いしました。



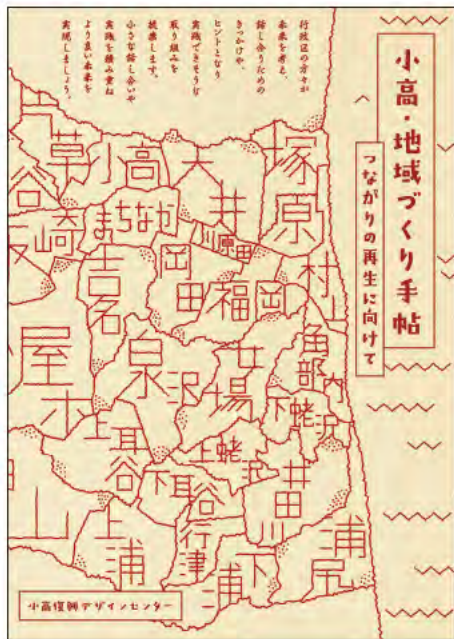
グラウンド・ゴルフ開設にあたって

村井俊道さん（塚原太平洋クラブ 事務局長）

わがふるさと「塚原」の10年後は、どうなっているのでしょうか？ 憂えています。震災前は118戸、解除後は33戸で、4分の1の帰還。太平洋に面した白砂青松の秋は鮭の遡上が見られる風光明媚なのどかな地域が、一変しました。何とか以前のような賑わい合うコミュニティを再構築できないものかと、試算しました。4月の総会において、手軽に老若男女が参加できるグラウンド・ゴルフの実施の賛意を得る事ができました。未来の希望に向かって、一步を踏み出しました。まずは、グラウンドの整備。公会堂隣地の空き地をみんなで協力して草刈、ゴミ拾い、大きな石の撤去。4月中旬に、第一回復興塚原グラウンド・ゴルフ大会を開

催しました。25名の参加があり、盛況の裡に終了しました。あの時のほち切ればかりの笑顔が思い出されます。その後塚原太平洋クラブなる会を発足しまして、週2回の定期的な練習をしております。グラウンドは間に合わせの環境だったので、先日地元の中里工務店さんにご支援をいただき整備しました。また、まちづくり補助金を利用しまして、自前の用具とクラブを用意できました。今後は行政区の枠を超えまして、近隣住民にもお誘いしまして輪を広げて行きたいと思っております。グラウンド・ゴルフ大会の準備に奮闘中。夢、希望を抱き、絆の大切さを忘れずに歩を進めて行きたいと思っております。「塚原」に未来あれ！

小高・地域づくり手帖が完成しました！



デザインセンターでは、平成30年度から行政区のコミュニティ再生を支援する取り組みとして「地域盛り上げ支援事業」を実施しています。その一環として、「小高・地域づくり手帖 ～つながりの再生に向けて」を制作しました。

小高・地域づくり手帖は、これまで行政区やデザインセンターなどが実践してきた取り組みの事例や、行政区のさらなる復興に向けた提案を掲載した冊子です。これらの提案や事例は、行政区の皆さんが、地域の復興・再生に向けて、活動を行うためのヒントやきっかけにいただければと思います。

小高・地域づくり手帖は、デザインセンターにて配布しており、小高区役所地域振興課でも閲覧できます。一度、手にとってご覧ください。また、デザインセンターのwebページにも掲載しております。

気になる事例や提案がありましたら、お気軽にデザインセンターまでお問い合わせください！

小高・地域づくり手帖の特徴①

8つのテーマで提案！

8つのテーマを設けて、全部で24の提案を掲載しました。また、小高区内の行政区や全国の地域が取り組む事例を紹介しています。

読んで頂いた方それぞれに、きっと、気になるテーマや提案が見つかります。

- ★ 24の取り組みを提案！
- ★ 小高区内の身近な事例や全国の先進的な事例を掲載！

行政区の今を知る	郷土芸能や文化的資源を伝える	災害遺構・被災の記憶を継承する	公会堂を気軽に使える場所にする
つどいの場をつくる	転出者・外部とのつながりをつくる	地域を彩る	場所に応じた使い方・管理をする

小高・地域づくり手帖の特徴②

提案や事例のポイントや課題を紹介！

各提案や事例では、実践する上でのポイントや課題を紹介しています。特に小高区内の事例では、中心となって取り組まれている方にインタビューを行い、工夫していることや、苦労話などもお聞きしました。

「自分たちでやるとしたら…」とイメージしてみてくださいはどうか？



▲ 小屋木行政区では、グラウンド・ゴルフ場整備の過程を伺いました。



▲ 小谷スポーツサークルでは、毎週の活動の工夫を伺いました。

「おだか千本桜プロジェクト」について聞きました！



▲今年2月、花見ふれあい広場が完成しました！海を望めます。



▲おだか千本桜プロジェクト 会長 佐藤宏光さん（大井行政区在住）

佐藤さんは、平成25年から「おだか千本桜プロジェクト」を仲間と立ち上げ、小高を人が訪れる場所にしようと、各所に河津桜を植樹する活動を続けられてきました。今回、佐藤さんに5年間の活動について、お話を伺いました。

―活動を始められたきっかけは？

区域見直しで立入りできるようになった5月の連休に、全国から瓦礫処理のためにボランティアの人たちが来られて、被災した私の家にも入っていただきました。大雨の日にも関わらず、作業をするボランティアさんの姿に物凄い衝撃を受け、やっつてもらった以上は返さなきゃならないと思ったのがきっかけで、おだか千本桜プロジェクトを立ち上げました。なぜ千本桜なのかというと、将来、被災した小高に人が来るのか、人がいなくなったらまぢがなくなってしまうのではないかと疑問に感じ、そうならないために人を呼べる観光施設をつくったらどうか、と思ったからです。

―これまでの活動について教えてください。

主に、県道や河川沿いの公有地に植樹する計画だったので、県などの行政に申請をするところから始めました。前例がなかったのと、震災後だったのもあると思いますが、とても時間がかかりました。植栽プランニング、管理プログラム、完成予想図なども作成し

て、一つひとつ説明して、ようやく少しずつ分かってもらえるようになりました。どんな種類の桜がこの地域に合っているのかなど、全国から情報も集めました。南伊豆の河津町に行つて、植樹の経緯や方法について直接お話を聞いて、河津桜にすることにしました。河津桜は、ソメイヨシノとは違ってそんなに高木にならないし、塩害にも強いんです。ここは潮風をもろに受けるけれど、それでも大丈夫でした。病害虫にも強いです。植樹箇所には、現場に行つて県の人にも立会ってもらい、何本植えられるかを測つて計画しました。行政の許可申請の後には、隣接する土地の地権者についても調べ上げて、一人ひとりに郵送・電話で連絡を取つて承諾を得ました。一人でも反対者がいれば、地域の分断にもつながりかねないので、そのエリアは断念しました。全国の企業さんから協賛金を集めて、苗も手配して、ようやく第1回目の植栽を平成27年12月に実施しました。以降、毎年植樹を12月と2月に実施して、これまで計600本を植樹しました。

―維持管理はどのようにされていますか？

一番大変なのは草刈り作業です。植えっぱなしにならないように、植樹したところは責任をもって草刈りをしています。全て法面なので難しいです。県道も昔は部落で草刈りをしていただけ、今は人がいなくてできません。ま

おだか千本桜 現在の植樹箇所



▲ 花見ふれあい広場の東屋もみんなで手作業!

▲ 水道・電気も完備

▲ 桜のほか、スイセンも植栽



▲ 河津桜のお花



▲ 花見ふれあい広場のお花から手づくりのコースターやしおりを作成されています。

ちづくりは、行政と一緒にやらないとできない。同じものを共有して、一緒に管理しようという風になっていくのが理想です。

— 花見ふれあい広場について教えてください。

花見ふれあい広場は、みんなが集まれる場所である公会堂が、普段は鍵が閉まっていて使えないので、誰でもいつでも来られるような場所になるように思いつくりました。土地は、津波被災で市有地化したところを活用しています。資金はクラウドファンディングで集めました。

— 今後の展望は?

今度の10月には、スイセン6000球を道路沿いに植えて、12月には、河津桜を大富集落センターの近くに植樹する計画です。これまで、多くのボランティアさんにお世話になっていて、少しでもお返しになるようにと、今、植えた花で押し花のしおりやコースターを作っています。小高を、震災前にやっていたように、自分なりに汗を流す暮らしができる場所にしたいです。会ったら「おはよう」を言い合って、ものをたくさん作ったりおすそ分けし合うような、そんな場所にまたなつたらいいなと思います。

佐藤さん、貴重なお話をありがとうございました! 花見ふれあい広場は、完成記念日など、皆さんで語らう場になっているようです。

まちなか菜園、順調に展開しています!

まちなか菜園事業は、小高の住民有志「小高はなみちプロジェクトチーム」とデザインセンターが協働で取り組む、空き地や空きスペースを地域の菜園として利活用する事業です。ご近所の数軒や行政区で菜園を始めたいという方や、コミュニティの場をつくりたいという方に、プランターやベンチなど菜園づくりに必要な備品を無料で貸し出しています。「菜園には興味があるけれど、まだ仲間が見つからない」という方には、同じ想いの方をご紹介します。今年度から本格始動した事業ですが、すでに駅前通り沿いの空き地や公会堂周りなどの5箇所で憩いの菜園がうまれています。今号では昨年度にスタートした東町ひだまり菜園を含む、6つの菜園をご紹介します!また、菜園づくりの希望者については随時募集中です。デザインセンターまでお気軽にお問い合わせください。

食事処叶や(2区)

旅館を改装して開店準備中の食事処叶やでは、今夏予定のオープンに先駆けてプランターを設置し、早速ハーブを育て始めました。菜園で育ったハーブを食堂で食べられる日が来るかも。



ひだまり菜園(5区・東町公営団地)

ひだまり菜園の野菜作りは2年目に突入しました。昨年好評だったじゃがいもに加え、今年はサツマイモを育てています。芋掘りには小高幼稚園の園児も参加予定です!



5区の皆さん& Odaka Micro Stand Bar

トマトやお花を育てています。東屋を設置するなど、まちなかの憩いの場所となるようさまざまな工夫を考えているそうです。また6月9日には、デザインセンターの企画のもと、こちらの菜園にてバーベキューを開催しました。菜園活動に参加されているまちなかの方々を中心に、高校生や通りすがりの方にも加わっていただき、総勢36名の大変にぎやかな会となりました。デザインセンターでは、今後もみんなで集まって楽しむ場づくりのお手伝いできればと思っています。



大富かけの森サロン/いろは・彩りの丘

大富では、集落センター前とデイサービス施設で菜園を始められています。それぞれ、サロンに集まる行政区の方と、施設の利用者の方で、お花を育てる予定だそうです。



浦尻さわやかサロン

浦尻公会堂前では、色とりどりの花と藍が植えられています。夏には皆さんで育てた藍を使って藍染めをするそうです!



デザインセンターでも、事務所前の空きスペースにてハーブとお花を育てています。ハーブは種類が多く、何から育てようかと悩んでしまいますよね。デザインセンターでは、おすすめのハーブや紅茶の淹れ方をご紹介します。いつでもご相談ください!

生き生き菜園 近況報告 (おだかの元気を耕す会)



今年度から、旧小高商業高校東手の畑に、みんなの共同菜園“生き生き菜園”ができました。早速、地域の方々による活動が始まっています。全20区画(各40㎡)の区画貸しで、小高区内の方はもちろん、区外からの参加者もみられます。6月には、小高区4小学校の3年生の児童たちと地域の方々と一緒に畑づくりの体験会も行いました。今後も随時、入園者募集中です!一緒に菜園づくりを楽しみませんか?

◀ 6月6日、小高区4小学校の3年生と地域の皆様



▲ 6月2日、入園された皆様と早速畑づくり!



▲ 野菜の作付けも始まり、生長が楽しみです!



▲ みんなで一生涯懸命、種植えの体験です。

素敵なお庭つきりませんか?

大富行政区で素敵なお庭を見つけました。ここは半杭さんのご自宅のお庭で、ハーブやバラ、様々な色とりどりの花が植えられたイングリッシュガーデンがとても素敵です。半杭さんは、震災前は酪農をされていたが、現在は酪農をやめて、大富に構えたご自宅の周りでお庭や野菜を育てているそうです。明日はこれをやろう、と毎日考えたりやることがあることがよい、とたのしそうにお話ししながらお庭全体を案内してくださいました。素敵なお庭をつくり、維持するには相当な努力が必要ですが、地域の皆さんが集まれば、わいわい楽しみながらお手入れもできますね!このような素敵で自慢したくなるようなお庭づくりを、まちなかの空地や公会堂など、皆さんが集まれる場所で実施しませんか?デザインセンターでご支援します!



▲ 広いお庭の中に芝生や様々なお花が綺麗に植えられ、手入れされていました。



▲ お宅の裏側にもお庭が広がっています。バラと他の花の組み合わせ、いろいろが素敵です!



▲ 白やピンク、紫などの淡い色のお花が好きで多くなったそうです。バラもとても綺麗でした!



▲ 中にはバラのアーチも!

2代目LLO、活動進行中!

初代の先輩方からバトンを受け取り、2代目LLOとしての活動は2年目を迎えました。2018年度は、地域の方の協力を得ながら、①小高区の魅力発信、②高校生の居場所づくり、③地域の方々との交流の3つを重点的に実施します。

昨年からひと回り成長した高校生たちの活躍が楽しみです!



「小高大蛇伝説まちあるき」開催!

6月24日、「小高大蛇伝説まちあるき」が開催されました。今年は小高区4小学校・小高中学校・PTAの協力もあってたくさん子どもたちが参加し、過去最多の151名の方々が参加しました。デザインセンターでも当日の運営をお手伝いしました。当日は晴天に恵まれ、小高の新緑の風景に囲まれながら、まちあるきを楽しみました。大悲山の歴史を学びつつ、親子や友達の絆も深まった1日となりました。



大富 今年もやります! ひまわり迷路

大富行政区の集落センターそばで、今年もひまわり迷路がオープンします! 8月上~中旬にひまわりは満開になる予定です! 皆様お誘いあわせの上、ぜひお越しください!



小高復興デザインセンター

2016年夏、設立しました。住民・行政をはじめとして、小高とつながりたいみんなが協働し、実践していく場です。

〒979-2124 南相馬市小高区本町2-89 旧社協会館
TEL: 0244-44-5100

Web: <http://td.t.u-tokyo.ac.jp/odaka/>
<https://www.facebook.com/OdakaRC/>